

報告テーマ④[1940C]

インド小規模都市群における地域に根ざした計画・デザインの提言と社会実装の取り組み～持続可能な開発目標（SDGs）への貢献を視野に～

プロジェクトリーダー 福田 敦

(1) 研究目的と概要

交通事故死亡者数の増加や大気環境の悪化が大きな社会問題となっているインドでは、2015 年採択された持続可能な開発目標（SDGs）によって示された交通事故死亡者数の半減や大気汚染レベルの低減などの交通に関するターゲットの達成が急がれている。しかし、人口 100 万人以下の多くの小規模都市では適切な計画が策定されておらず、具体的アクションに落とし込むことが出来ないのが現状である。そこで、国際交通安全学会では、インド工科大学と協力して、地域に根ざした安全な都市の計画及びデザインに向けての提言を行ってきた。

本プロジェクトは、この共同研究の 3 年目であり、SDGs の視点からインド小規模都市群において具体的アクションを展開する方法を、インド工科大学のコミュニティーに根差した取り組みと当学会の領域横断的な知見をフル活用することで提案し、具体的取り組みの実施につなげることを目的とする。

(2) 質疑応答

Q. 日本からご出張の回数、日数、のべ日本人の数(労力)、インド工科大学のチュワリ先生の言われたことから、これから 2 か月で起こることは何でしょうか。また、インドの都市でのシェアサイクルの展開可能性について。

A.1 回 4, 5 名が年に 2 回くらいしか行けなかったが、私も小早川教授もほかのプロジェクトでもインドに行っているので多分年間 4, 5 回はインドに行っているような状況の中でいろいろ聞きながら議論させていただいた。今後はインドの中でデータがない中でどうやって分析するのか。そしてどうやって SDGs に結び付けるかは考えないといけない。現状では自転車シェアリングは見たことがない、暑い地域なのでバイクが多い。

Q. データもない中で、ということでしたがインドは日本よりも IT、ハイテクが進んでいる国とききます。IT があればビッグデータの収集が一気に進むのではないのでしょうか。

A. ハイデラバードなどでは最先端の IT 機器を使ってデータを取得している。大都市では可能である。ところが、インドには 100 万人規模の都市がたくさんあり、こういう都市に対してデータがない。こういう都市では今までデータがとられてないということが問題である。

Q. タイトルに中規模都市というのがでていますが、いわゆる大都市での交通問題に対する SDG s 達成図の動きと中都市、中規模都市での違いはどこにあるのでしょうか。多分対策をみると取締りの強化であるとか、ラウンドアバウトの設置であるとか、大都市でも同じような対策メニューになるのではないかと思うのですがどこが一番ちがうのでしょうか、データをとるところでしょうか。

A. 大都市ではメトロ、高架鉄道でもメトロというが、軌道系公共交通も入ってくる中で、駐車政策も含めて、マスを進めようということが検討されている。実際我々もアプリを作り、このプロジェクトではないがそういうことを目指している。かなり高度な交通制御をしようと考えている。今回扱ったような都市では全くそういうものはなく、信号も整備されていない状況であった。

(3) 出席者の感想など(一部抜粋)

- ・講演でも触れられていましたが、小規模都市に関する情報は全くといって良い程に存在しない中で、良くも警察を含む当局の協力を得てこれだけのデータを収集されたものだと、感服致しました。ただ、例にもれず、施策の実行段階に入ると地方政府の厚い壁に阻まれることは想像されますが、1 都市でも良いので何とか成功体験を築き上げて突破口になればと期待しております。
- ・インド工科大学という世界の一流との連携に感動しました。福田先生、小早川先生の長年のご努力に深く感動します。警察への教育、意識改革を含め、ここまで実績を上げられたことは、素晴らしい国際貢献です。暑い国タイでは、この 5 年間、自転車ブームです。インドも環境、意識変化で期待をしています。
- ・IATSS らしい、国際性のある研究である。先生方の地道な取り組み姿勢が素晴らしい。

※本資料は発表者本人の事前確認を行っております。また、質疑応答および出席者の感想は基本的に原文のままとしてあります。